

# 宮城県林業普及活動情報

2023. 12月号 No. 187

## もくじ

### 各地の林業普及活動情報

P 2～9

- 「放射性物質低減化対策（カリ散布）」を実施 (大河原地方振興事務所)
- 「小ロット素材出荷に係る視察及び打合せ」への支援 (大河原地方振興事務所)
- 「せんなんマルシェin大河原合同庁舎」を開催 (大河原地方振興事務所)
- 黒川森林組合参与員会で森林経営管理制度と森林整備、伐採届制度について説明 (仙台地方振興事務所)
- 原木しいたけ出荷制限ロット解除のための現地確認 (仙台地方振興事務所)
- ハタケシメジの冬期間における安定的な栽培に向けて (北部地方振興事務所)
- 「岩手県花巻市主催：スモール・フォレスト・カレッジ2023」での講義 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「苔テラリウム商品化講習会Ⅱ」の開催、及び「くりはらの苔による地域振興の方向性」の検討 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 再造林促進協定植樹式の開催 (東部地方振興事務所)
- 合板用県産材需給調整会議の支援 (東部地方振興事務所)
- GNSSを用いた確認調査 (東部地方振興事務所)
- 木育・木工教室の支援 (東部地方振興事務所)
- 「登米市公共施設木造・木質化」支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 全国育樹祭実行委員会事務局表示板製作支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 県産材を活用した木工品の製作 (気仙沼地方振興事務所)
- 意欲と能力のある林業経営者を目指した、経営管理者向け研修 (気仙沼地方振興事務所)
- 初開催となる南三陸林業フェスティバル2023への支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 広葉樹ビジネス講座Ⅰの開催 (林業技術総合センター)

## 「放射性物質低減化対策（カリ散布）」を実施

大河原地方振興事務所

【1日(金)】

丸森町の3地区（旧金山町、旧館矢間村、旧大張村）におけるたけのこの出荷制限の全面解除に向けた取組として（令和4年3月30日に全量検査の条件付きで出荷解除）、竹林内において落葉落枝の除去及びカリウム散布を実施しました。当事務所では、これまでカリウム散布等の低減化対策を継続して実施してきており、モニタリング調査から効果が確認されています。引き続きモニタリング調査を行いながら、全面解除に向けて支援してまいります。



【実施の様子】

## 「小ロット素材出荷に係る視察及び打合せ」への支援

大河原地方振興事務所

【18日(月)】

小ロット素材出荷の可能性を求めて、自伐林家等に対する視察及び仙南共販所にての打合せで指導・助言を行いました。

視察は、坂元植林の家「さとのえ」にて、紹介VTRを鑑賞し、構造・内装等の説明を受けた後、製材工場の見学をしました。

仙南共販所では、落札状況を確認してから自伐林家の方々と打合せを行いました。

出荷可能な級径や採材方法等を県森林組合連合会の担当者から説明を受け、自伐林家の方々からは小ロットでの出荷の可能性を得たことで、手ごたえが感じられました。



【仙南共販所での打合せの様子】

## 「せんなんマルシェin大河原合同庁舎」を開催

大河原地方振興事務所

【22日(金)】

当所の各部と連携し、仙南地区の農林産物や加工品等を広くPRする販売会を大河原合同庁舎で開催しました。

この販売会は9月に続き、今年度2回目で、今回は、「クリスマス」と「年越し」をテーマに、仙南地域産の農林産物や加工品の販売ほか、地元飲食店等による特色あるメニューが提供され、消費者に向けて仙南地域の魅力を広くPRしました。林業関係では、「ぎんなん」と「原木しいたけ」の販売が行われました。寒い時期ではありましたが、地元高校と連携した広報活動や、出店内容の多様化、販売会の開始時間を早めるなどとい



った工夫を行うことで集客効果も上がり、山の幸の魅力を伝えるいい機会となりました。

今後も、仙南の山の幸の販路拡大に向け、関係機関と連携しながら、生産者支援と魅力発信を継続していきたいと思いをします。



【マルシェの様子】

## 黒川森林組合参与員会で森林経営管理制度と森林整備、伐採届制度について説明

仙台地方振興事務所

【13日(水)】

大和町の「町民研修センター」において、黒川森林組合の参与員会が開催され、当事務所から森林整備に係る補助金のポイント、森林経営管理制度と森林環境譲与税、そして伐採届及び伐採後の造林届について説明を行いました。

参与員会には各地区の組合員の代表等60名の出席があり、森林整備に関する補助事業の方針については、長伐期施業から一貫作業システムを活用した皆伐再造林へと方針を転換していることについて説明したほか、森林経営管理制度については来年から財源となる森林環境税の課税が始まることを踏まえ、黒川郡内の各市町村の取組状況も含め説明しました。

伐採届及び伐採後の造林届については、特に伐採後の状況報告については森林所有者に報告義務があるため、忘れずに各市町村に届出いただきたい旨説明しました。

今後も森林所有者等への制度の周知を図るとともに、森林組合と連携しながら、制度等の活用を推進していきます。



【組合長・役員の挨拶】



【参与員会の様子】

## 原木しいたけ出荷制限ロット解除のための現地確認

仙台地方振興事務所

【15日(金), 19日(火), 21日(木), 28日(木)】

仙台市宮城野区、大和町では露地栽培、大衡村では施設栽培の原木しいたけ生産現場を調査し、生産管理が適切に行われていることを確認できました。

出荷規制のかかっている地域では、各生産者が、ホダ場に麻袋や防草シート等を敷いてホダ木と土壌の接触を防ぐなどの放射物質対策を行い、安心・安全なしいたけの生産を行っています。



【麻袋が敷かれたホダ場】

## ハタケシメジの冬期間における安定的な栽培に向けて

北部地方振興事務所

【12日(火)】

産地直売所では、販売品目の冬期間における安定的な確保が課題となっています。

そこで、大崎市岩出山地区において、寒さ対策に温床キットを用い、50個の菌床をハウス内に伏せ込む、ハタケシメジの簡易栽培方法に関する指導を行いました。

生産者に「菌が育つ段階の管理が大切」、「菌床を覆うわらの追加」等、今後必要となる事柄を指導しました。

生産者は「徐々に菌床数を増やしたい」と生産拡大に意欲的なので、引き続き意向に沿った栽培支援を行ってまいります。



【伏込み状況確認】

## 「岩手県花巻市主催：スモール・フォレスト・カレッジ2023」での講義

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【2日(土)】

岩手県花巻市（委託先：NPO法人）からの依頼により、森林資源活用に関する理解を深めるための研修において、栗原地域で苔について取り組んでいることを知り、苔の普及に取り組むきっかけなど話してほしいとの要望があり、「くりはらの苔産地化に向けた取組」をテーマに講義を行いました。

苔の栽培方法や栽培団体のこと、栽培に取り組んでいる苔の選択や需要先、苔テラリウムのこと、他県の状況などたくさんの質問が出され、受講者の皆さんは「苔」について非常に高い関心を持っていただきました。



【講義の様子】

## 「苔テラリウム商品化講習会Ⅱ」の開催、及び「くりはらの苔による地域振興の方向性」の検討

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【7日(木)】

産地化を目指している「くりはらの苔」による苔テラリウムの商品化を図るため、10月開催の「苔テラリウム商品化講習会Ⅰ」に続き、テラリウム講習会の実践者を対象とした「商品化講習会Ⅱ」を開催しました。

講師には造園会社での経験を有する仙台市青葉区の苔テラリウムショップの店長をお迎えし、小石の配置、苔の管理方法、苔の植え方、配置バランス等のコツを惜しみなく披露いただき、栗駒文字地区の苔を使ったグレードとクオリティの高い苔テラリウムが完成しました。

また講習会終了後には、「杜のコケリウムコンテスト」の主催者を交え「くりはらの苔による地域振興の方向性」について検討を行いました。造園資材としての苔の産地化は価格やコスト面で大手企業に太刀打ちできないこと、栗原には育成が難しい希少な苔を生産できる環境的アドバンテージがあること、「苔の産地化」よりは「苔の聖地化」の方が地域振興策として優位性が高いこと等のアドバイスをいただいたことから、今後は、この新たな方向性への展開を模索していくこととなりました。



【講師からはテラリウム作製のコツを惜しみなく披露いただきました】



【グレードとクオリティの高い苔テラリウムが完成しました】

## 再造林促進協定植樹式の開催

東部地方振興事務所

【2日(土)】

再造林促進に係る協定（令和2年6月締結：(株)山大、石巻地区森林組合、当所）による植樹活動が行われました。

(株)山大からの呼びかけにより、住宅建築関係者など約90人が参加し、雄勝地区の伐採跡地において、スギ苗木（少花粉・1,180本提供）を植栽しました。今回は、仙台からの学生参加も多く、林業関係者以外の皆さんにも取組の輪が広がりました。今後とも、関係者の連携を深め、地域の環境保全やSDGsの達成を着実に進めていきます。



【植樹式作業の状況】

## 合板用県産材需給調整会議の支援

東部地方振興事務所

【19日(火)】

合板用県産材の安定的な供給を目的に、流域林業活性化センターと連携し、合板会社や素材業者を参集して会議を開催しました。会議前には、合板工場土場で「原木品質向上研修会」も開かれ、素材生産者等約70人が、納入基準の認識を新たにしました。

会議では合板の減産調整が長期に及ぶ中、原木価格の維持には連携の維持強化が大切なことや、今後出材される国有林・公有林の素材の円滑な調整が重要なことなどが話し合われました。加えて、当所から、関係者との連携しながら、製品輸出の検討を進めることをお願いしました。



【品質向上研修会の状況】

## G N S S を用いた確認調査

東部地方振興事務所

【20日(水)】

間伐補助事業の概算払請求の受理に当たり、現地出来高の確認を衛星測位受信機（G N S S 端末）を用いて行いました。受信機による確認では、作業道12路線を歩行で計測でき、従来の確認作業よりも短時間で確認することが可能でした。また、標準地調査(伐採率確認)にも活用し、請求内容の適正さを確認しました。今後も、補助金事務の効率化に向け、スマート林業化を推進する予定です。



【端末確認の状況】

## 木育・木工教室の支援

東部地方振興事務所

【22日(土)】

株式会社千葉工務店(東松島市)による「親子木工教室」の開催を支援しました(令和5年度みんなで広げる「木育」推進事業活用)。

会場の同市矢本西市民センターにおいて、同社の大工さんを講師に迎え、市内小学生の親子(6組15名)を対象に「木製クリスマスツリー製作」・「丸太切り」・「カンナかけ」を体験してもらいました。参加者からは「カンナかけが一番楽しかった」、「ツリーを早く飾りたい!」などの感想があり、講師からも「丁寧な作業指導ができてよかった」と双方から好評を得た木育活動になりました。



【クリスマスツリーの製作】

## 「登米市公共施設木造・木質化」支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【14日（木）】

登米市が令和7年度の竣工を予定している米山複合施設建築における森林環境譲与税の使途等について、検討を行いました。

米山複合施設は、米山総合支所、公民館、小学校の複合施設で、建築工事に必要な登米市産材の供給や、伐採・搬出経費、加工経費等の森林環境譲与税の使途範囲について検討を行いました。登米市産材活用に関する方針に沿った使途を整理することができました。



【よりよく税を活用するには？】

## 全国育樹祭実行委員会事務局表示板製作支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【18日（月）】

令和7年に本県で開催される全国育樹祭の機運醸成のため、実行委員会事務局の表示板を登米市産の広葉樹 FSC 認証材で製作することになり、米川小学校6年生8名（緑の少年団）に表示板の製作支援を行いました。

登米市の森林の説明を聞き、直接木に触れて樹種毎の重さの違いを感じながらタブレットで文字を作成しました。



【木に触れて文字を作っています】

## 県産材を活用した木工品の製作

気仙沼地方振興事務所

【19日（火）】

気仙沼市にある就労継続支援事業所「松峰園」では、主に市内から調達したクリやケヤキ等の広葉樹材を使用した木工品を製作し、美術館や道の駅等の土産店で販売しています。

当部では、地域産材のPRと需要拡大を目的として、各種イベント配布用木製ノベルティの製作を検討しており、製作にあたって松峰園への依頼が可能であるかを相談するため、現在の製作状況の聞き取りも行いながら、



【打合せの様子】

打合せを行いました。

製作状況を確認したところ、材料の調達から製品への加工、包装までの一連の作業を実施しており、気仙沼市観光キャラクター「ホヤぼーや」をデザインしたキーホルダーや季節に応じた作品等、製品の種類も多岐にわたることが分かりました。

当部からの木製ノベルティ制作依頼についても引き受けていただける旨回答があり、今後、デザインを決定した後に試作を行いながら、製品の完成を目指してまいります。



【木製品の事例】

## 意欲と能力のある林業経営者を目指した、経営管理者向け研修

気仙沼地方振興事務所

【15日(金)】

本研修は、みやぎ森林・林業未来創造機構経営強化就業環境部会が行う、経営強化と就業環境向上に向けた勉強会に位置づけられており、全4回の研修を通じて、事業体の強みや弱みといった現状を把握し、改善策を検討の上で経営ビジョンを作成できる経営者の育成支援を目的とした研修となっています。

今回は、総まとめとなる第4回目の研修であり、当管内からは2事業体（計4名）が参加し、これまで作成支援してきた（仮）経営ビジョンの発表がありました。各事業体ともに非常に自己分析された内容となっており、実際の経営ビジョン作成の一助となったと思われます。



【研修会の様子】



## 初開催となる南三陸林業フェスティバル2023への支援

気仙沼地方振興事務所

【3日(日)】

南三陸森林管理協議会が主催となり、今年度が初開催となる南三陸林業フェスティバル2023に、当部もブースを設け、「特用林産物の試食（しいたけの唐揚げ）」・「しいたけ植菌体験」・「ドローン操縦体験」・「なりきり林業キッズコーナー」・「高性能林業機械ミニカー展示」・「林業PR動画上映」等、多岐にわたったPRブースを設けました。

初開催ということで、イベントの知名度不足による来場者数に不安がありましたが、各PRブースは盛り上がり、延べ170名の一



【しいたけ植菌体験】



般県民にPRすることが出来ました。


特にドローン操縦体験は予定時間を大幅にオーバーするなど好評であり、しいたけ植菌体験は、南三陸椎茸生産組合の協力のもと実施しましたが、今後も継続的に開催出来る体制が構築できました。

なお、来年度の開催も検討されているようですので、次回開催をご期待願います。



【なりきり林業キッズ体験】



【ドローン操縦体験】 

## 広葉樹ビジネス講座 I の開催

林業技術総合センター

【7日(木)】

みやぎ森林・林業未来創造カレッジの主催により「広葉樹ビジネス講座 I」を実施しました。

午前は、登米町森林組合の方を講師に迎え、広葉樹材を活用したビジネスの実践状況と今後の展開等に関する講義していただきました。

午後は、ウッドプランクやカッティングボード製作に関するワークショップを実施しました。

研修生は、ビジネス化に必要なネットワーク構築のポイントや商品化の難しさを学ぶことができました。



【カッティングボード製作】